

2009 年度 国際金融論 定期試験 (60 分)

2010 年 1 月 19 日 実施

注意

- アルファベットやギリシア文字を用いる際、講義と同じ用法(たとえば GDP を Y で表すなど)であれば定義は省略してよい。
- グラフを描く際、縦軸と横軸に何を測っているのか明記すること。

第1問 適切な選択肢はどれか。(各 5 点, 計 20 点)

- (1) 経常収支の赤字を出している国は、現在の所得は^(a){ア 大きい イ 小さい}が、将来の所得は^(b){ア 大きい イ 小さい}国である。
- (2) 経常収支が黒字の場合、広義の資本収支は{ア 黒字 イ 赤字}である。
- (3) 現金は流動性の{ア 高い イ 低い}資産であるが、公債や社債は流動性の{ア 高い イ 低い}資産である。
- (4) 世界を見渡してみると、現在も固定相場制を採用している国は{ア ほとんどない イ 多数ある}。

第2問 政府高官が「いっそうの円安が望ましい」と発言した直後に、実際に為替レートが大きく円安に触れることがある。何の政策も実行せず、ただ発言しただけでなぜ為替レートが変動するのか。この現象を金利平価式を用いて説明せよ。(5 行程度)(10 点)

第3問 変動相場制下で、中央銀行が民間部門が保有している国債を市場で購入することを考える。

- (1) この行為によって貨幣供給量はどうか。(5 点)
- (2) 利率および為替レートにどのような経路を通じてどのような影響を及ぼすか、超短期の視点から説明しなさい。ただし、「超短期」とは、利率および為替レートの変化の影響が財市場で現れる前の段階を指している(つまり、貨幣市場と外国為替市場だけを考えればよいということ)。(5 行)(10 点)

→ (2)について、答えにくい場合は具体的な数値例を用いるとよいかもしれない。たとえば、「今、円建債券、ドル建債券の利率がそれぞれ 2 パーセント、4 パーセント、円＝ドル・レートが 100 円、期待円＝ドル・レートが 98 円であるとする」など。

第4問 講義で学んだ DD-AA モデルに関連して以下の各問に答えなさい。

- (1) DD 曲線および AA 曲線について、それぞれ①何を表しているか、②どのような形状になるか(図示する)、③なぜそのような形状になるかについて簡潔に説明しなさい。(20 点)
- (2) アメリカ連邦準備銀行(アメリカの中央銀行)が貨幣供給量を縮小させ、ドル建債券の利率を引き上げたとする。このことが日本の GDP、金利、円＝ドル・レートに及ぼす影響について、DD-AA モデルの枠組で答えなさい(図のみでは不十分。必要最低限の説明はつけること)。(15 点)
- (3) アメリカの所得(GDP)が何らかの理由で減少したとする。このとき、「米国と日本の GDP の差が縮まり、日本が“勝利”する日も近い」と歓迎する日本人がいたとする。この人の発想を、あなたは経済学の観点からどう評価するか、説明しなさい。(5 行)(10 点)

第5問 「為替相場制度のトリレンマ」を説明し、それをもとに為替レートが動くこと(あるいは、動いてもよいこと)のメリットについて論じなさい。(7 行)(10 点)